早川尾根・甲斐駒ヶ岳：敗退山行報告

【日程】2018 年 9 月 22 日～24 日

【山域】南アルプス：鳳凰三山・甲斐駒ヶ岳

【メンバー】CL 菊池・菅井・鶴田・寺崎

【行程】

22 日：千葉－御座石鉱泉駐車場（1064m）8：06―12：25 燕頭山（2105m）―14：44 鳳凰小屋（2382m）

23 日：鳳凰小屋 4：00―地蔵ヶ岳：オベリスク直下―5：36 賽の河原―5：50 赤抜沢ノ頭―7：14 高嶺（2779m）―8：43 白鳳峠（2450m）―11：36 広河原（1520m）―バス－北沢峠―仙水小屋（泊）

（計画は早川尾根小屋―アサヨ峰―栗沢山―仙水峠―仙水小屋）

24 日：仙水小屋―北沢峠―広河原―芦安駐車場－タクシー―御座石鉱泉―武田八幡神社―白山温泉―大村記念美術館―帰葉

（計画は仙水小屋―仙水峠―駒津峰―甲斐駒ヶ岳―駒津峰―北沢峠）

【目的と立案】

・昨年の間ノ岳―仙丈岳、今年の荒川前岳―三伏峠を繋げたことにより、主な縦走の踏破が完了していたが、1996 年の鳳凰三山を縦走し、鳳凰小屋泊で広河原に下山した時に早川尾根から甲斐駒ヶ岳の雄大な景色に圧倒され、いつか早川尾根から仙水峠まで繋げたいと考えていた。

早川尾根小屋は数年前、熊被害があったとのことで、小生もそのニュースを知り、この縦走は脳裏から離れていたが、近年トレーニングを頑張っていたため、再度、早川尾根縦走意欲が湧いてきた。

早川尾根小屋、最近営業されておらず、テント泊か避難小屋として利用は可能との情報を得ていたが、重荷での縦走は厳しく、鳳凰小屋から仙水小屋まで標準タイム 9 時間半を何とか 1 日で頑張れるかもと考えた。メンバーの中で甲斐駒ヶ岳登頂未経験の方がいたため、2 泊 3 日で仙水峠までの縦走と甲斐駒ヶ岳登頂という大きな 2 つの目標を設定した。

・9 月連休にはメジャールートは激混み必死である。芦安での駐車場確保がかなり難しいと考え、御座石鉱泉からの入山とした。

・体力・体調などを考え、白鳳峠か広河原峠から広河原への下山も考慮しつつ、早川尾根小屋での宿泊も考慮し、食料・水などを多めに持参することとしたため、やや重荷になった。

【報告】

・天気予想が微妙で初日は雨中のスタートを覚悟していたが、雨も早々上がり天気は回復していた。案の定、御座石鉱泉駐車場のスタート時は 5～6 台しか駐車しておらず、スムーズなスタートであった。標高 1064m から 2382m の鳳凰小屋まで急登が多くハードな標準タイム 5:50 のロングルートである。 2105m の燕頭山までは急登続き、平坦な燕頭山山頂付近はこんな感じ、この辺から足の筋肉疲労でペースダウンとなる。

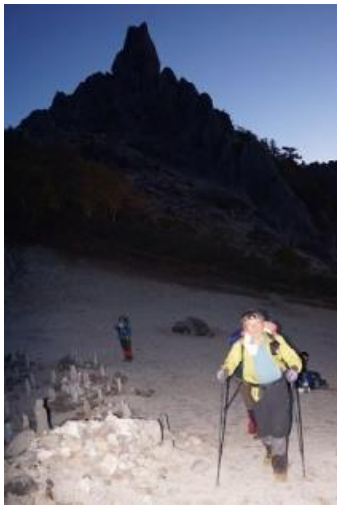
・苔むした岩場やこんな素晴らしい雰囲気の登山道、キノコや真赤なカエデの落ち葉を撮影しながら、鳳凰小屋はもう少しである。鳳凰三山体験 2 回目は友人夫妻と御室小屋にテント泊してこのルートを下った。今回で 2 回目のルートである。前回の下りでは小鳥のさえずりを楽しみながらの下

山、今回も少し聞こえました。登山道の記憶は殆ど残ってなく、こんなアングルでオベリスクが望めるなんて、つい歓声を上げてしまった。紅葉の始まった多彩で迫力のある岩壁、これぞグレイトビューである。このルートでの登りは初体験、苦労して頑張った者のみがゲットできる絶景です。

・到着した鳳凰小屋、狭いテント場は既に満杯状態。1泊2食8200円、夕食はカレー、一畳に2人、夕食までに十分時間があり、駆けつけ

350ml×2で乾杯と談笑。同ルートを辿った香港からのペアと拙い英語で登山・山スキー・ランニング談義に花を咲かせた。打ち込んでいる趣味の世界はまさに「クレイジィ」ですね。この言葉は良い意味にも、悪い意味にも使いますね！！　夕食後はドリップコーヒーを楽しみ、翌日に備えて7時半頃には就寝した。

・2日目は仙水小屋までの標準タイム9:30ほどの超ハードロングルート、暗い中ヘッドランプの下、朝食の弁当を、さ湯で流し込みながら頑張って食べて4:00頃出発。まず林間、ヘッドランプを頼りに分かりにくい登山道をゆっくり進む。オベリスクに近づくと急な砂斜面、一歩登って半歩ずり落ちるような最悪の斜面に喘いで頑張った。スタート直



後から標準タイムを大幅にオーバーして賽の河原に到着。雲海上のご来光を大勢の登山客が待っていた。

・稜線の赤抜沢ノ頭に到着すると間もなくご来光を迎えた。

・高嶺（2779m)に向かって岩稜帯を進む。雲一つない素晴らしい秋晴れ、ハイマツ帯の稜線付近は真赤に紅葉した樹木も見られる。雲海上の甲斐駒ヶ岳が素晴らしい。高嶺に到着、対面には北岳がデンと控えていた。

・このルートは 1996 年に続いて 2 回目であるが、今回の方が好天で眺望を欲しいままにできた。憧れのアサヨ峰の向こうに甲斐駒ヶ岳、この景色を再度見たかったのである。さすがに稜線からの北岳も最高です。絶品ですね！！

・高嶺から白鳳峠への下りの前半は急な岩場、高齢者メンバーの我々には厳しい下り、時間をかけて慎重にゆっくり下った。8:43 漸く峠に到着。スタートしてから早くも 4:40 ほど、標準タイムより大幅にオーバーしている。峠に到着して安堵の笑顔が見られるが、大分疲れています。この時点で先に進むのは断念、とりあえず峠から広河原に下

ることに決定した。休憩中に早川尾根小屋でテント泊のパーティに会い、状況を聞いてみたが、小屋の水場は健在、アサヨ峰の登りがきつく、栗沢山の頂上付近も岩場で大変とのこと。小生の今回の最大の目的、仙水峠まで繋げる計画はやはり無謀であった。繋げるには早川尾根小屋泊まりは必須であることが再認識できた。1966 年に下ったのは白鳳峠からか広河原峠からか記憶に残っていない。下り始めはそれほど急ではないガレ場である。北岳を正面に気分良く下って行く。前回はこんな感じではなかったなあと自問しながら歩を進めた。後半はやはりすごく急で

ハンパナイ岩場、鉄のハシゴを数個慎重にクリアした。白鳳峠から標高差 850m、前回は広河原峠から下ったようでもう少し楽であった。最後まで急な危険地帯が続き、緊張状態の持続を強いられた。両峠から林道まではどちらも標準タイム 2 時間半であるが、3 時間くらいをかけ慎重にゆっくり下った。ヘルメット持参はやはり必須であった。

・広河原からバスで北沢峠に向かい、予約してあった仙水小屋まで約 1 時間頑張った。仙水小屋に到着、青空の下、駒津峰方面は紅葉が見頃になってきているようで，明日の甲斐駒ヶ岳への登高意欲が湧いてきた。仙水小屋は小生にとって 2 回目です。1994 年に甲斐駒ヶ岳初登頂の前日宿泊、モーツアルトなどのクラシックが流れていた。現在は完全予約制、布団も快適でゆ

ったり熟睡。7000 円で刺身、てんぷら、納豆など美味しい食事で皆さん大満足でした。3 年位前に皇太子が七丈小屋泊で甲斐駒登頂、栗沢山ピストンの後、下山時に立ち寄り、仙水小屋の水を飲み、美味しく大感激、後で侍従から水を送るように連絡があったとのこと。トイレも水が常時流れており、清潔で快適でした。

・今回の山行のもう一つの目標は、甲斐駒登頂であった。最終日は天気も持ちそうであったが、老体メンバーのため潔く諦め、早く帰葉するにした。「二兎を追う者は一兎をも

得ず」の結果となってしまったが、2 日間の山行で大満足、混み合う朝一のバスで広河原に向かった。広河原からの大樺沢・北岳の雄姿を写真に収め大満足、芦安からはタクシーで御座石鉱泉へ、約 1 時間 11000 円であった。

3 日間の汗を韮崎 IC の近い白山温泉でと決めて向かうと、近くに武田八幡神社があり、

ランニングスタイルの地元の方に説明を受け、じっくり見学した。ノーベル医学・整理学賞受賞の大村博士関連の白山温泉は、対面には茅ヶ岳・八ヶ岳の雄大な景色を楽しめる露天風呂がすばらしい。敷地

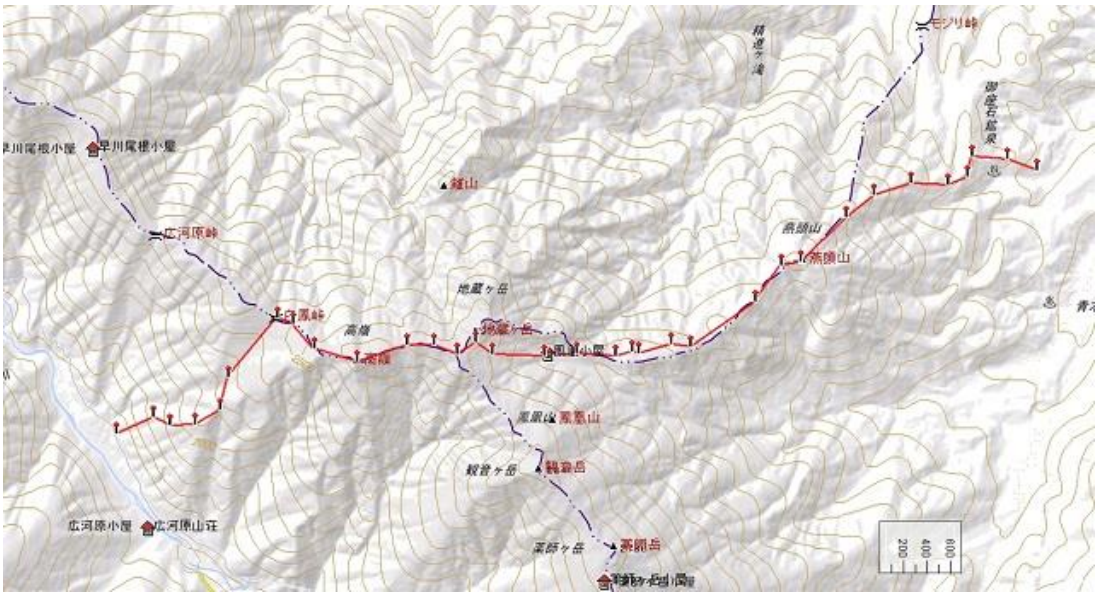
内の「上小路」で 900 円と信じられない低価格の野菜てんぷらざるそばを食したが、なんと美味しかったことは言うまでもない。お腹を満たし、次は大村記念美術館で百

歳になられた堀文子さんの日本画を鑑賞しました。この一帯は「武田乃郷」として、観光客に人気のエリアのようです。早い帰葉を考えていたが、大満足の観光の最終日、大渋滞にはまってしまい、結局帰宅は 21 時を過ぎていたようだ。

【結語】

・鳳凰小屋—仙水小屋の標準歩程は 9 時間半ほどであるが、老体、体力低下メンバーが多いパーティであり、2 日目の計画は無謀な計画であった。繋げるには早川尾根小屋泊が必須であった。

・アサヨ峰の素晴らしさはやはり捨てがたい。山頂を是非踏んで甲斐駒ヶ岳を至近距離で眺めたい。この目的は北沢峠泊か仙水小屋泊で日帰り可能である。早川尾根を繋げるのは諦めて、アサヨ峰制覇のみを目的として再度挑戦するか、これからのトレーニングに励みたい。

・「*秋空に　アサヨ彼方の　甲斐駒や*　」

この句は今回、憧れのアサヨ峰登頂の際に、ご披露すべく、一日目の登りで思案していたものです。